

# 令和6年度 第2回京都市保健所運営協議会 摘録

令和7年1月15日(水)  
午後1時30分～午後2時40分  
京都府医師会館2階会議室211

## 1 出席者(敬称略)

### <委員>

#### ○ 関係団体代表委員

京都府医師会：松田 義和  
京都府薬剤師会：夏目 君幸  
京都市食品衛生協会：小原 孝浩  
京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：森田 秀一  
京都府美容業生活衛生同業組合：(欠席)

京都府歯科医師会：中村 雅彦  
京都市保健協議会連合会：堺 紀恵子  
京都府理容生活衛生同業組合：西 栄三  
京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：(欠席)

#### ○ 各区地域保健推進協議会代表委員

北(北医師会)：(欠席)  
左京(左京医師会)：塩見 聡史  
東山(東山医師会)：(欠席)  
下京(下京東部医師会)：前田 眞里  
右京(右京医師会)：松木 正人  
伏見(伏見保健協議会連合会)：(欠席)

上京(西陣医師会)：田中 誠  
中京(中京保健協議会連合会)：山本 真澄  
山科(山科区健康長寿推進協議会)：雲林院 能英  
南(南保健協議会連合会)：(欠席)  
西京(西京民生児童委員会)：小原 節子

### <事務局>

#### ○ 京都市保健所

京都市保健所長：池田 雄史  
京都市保健所参事：石崎 達郎  
京都市保健所参事：有本 晃子

京都市保健所次長：八代 康弘  
京都市保健所参事：松村 貴代

#### (健康長寿のまち・京都推進室/健康長寿企画課)

健康長寿のまち・京都推進室長：藤田 智洋  
健康長寿推進担当課長：濱口 大介  
保健担当課長：榑崎 純子

健康長寿企画課長：木下 尚彦  
計画推進担当課長：田賀 千津

#### (医療衛生推進室/医療衛生企画課)

予防接種担当課長：吉田 健二  
健康危機対策担当課長：上領 孝枝  
生活衛生担当課長：大原 隆

担当課長：井高 健二  
食品衛生担当課長：西原 和美

#### (障害保健福祉推進室)

施設福祉課長：北垣 政治

#### (子ども家庭支援課)

子育て支援担当課長：南部 美紀子

## 2 開会挨拶

池田保健所長

## 3 議事

### ○ 議題・報告（１）令和５年度京都市保健所運営方針取組結果等について

⇒ 事務局（各所管課）から資料説明。

#### 【質疑応答】

（新型コロナワクチン接種について）

観見委員（左京）：接種率が低調であると思うが、京都市では定期接種の実施が１月末で終了すると認識している。３月末まで実施している自治体もあるが、実施期間の延長は考えているか。

井高課長：定期接種は令和６年度から実施しているが、令和５年度までの特例臨時接種の接種率と比較すると少し低い。

最近ではインフルエンザも流行しており、コロナについても今後拡大する可能性があるため、実施期間の延長について検討している。

観見委員（左京）：年齢で区切られてるため、１月３０日に６５歳になるのを待ってる人もいる。２月・３月に６５歳になる人にとっては不公平だと思うので配慮してはかがか。

井高課長：制度上、難しい部分もあるが、このような御意見を今後、参考にさせていただく。

（健康ポイント事業について）

西委員（埋容）：健康ポイント事業の内容や応募方法等について詳しく知りたい。

濱口課長：歩く等の健康づくり活動や文化活動、ボランティア活動等を実施していただき、それぞれの活動に定められたポイントを、毎年度発行している「いきいきシニアポイント手帳」に記録のうえ、貯めたポイントで四半期毎に抽選へ御応募いただく仕組みとなっており、令和５年度で約１１，０００件の御応募いただいている。

高齢者の健康づくり活動の動機付けになっていると考えている。

西委員（埋容）：「いきいきシニアポイント手帳」は区役所で入手できるのか。

濱口課長：区役所でも入手できる。必要部数が多い場合は、健康長寿企画課でもお渡しできる。

松田会長：市民がどれだけ健康ポイント事業を認知しているのかという点が重要である。せっかく良い事業を実施しているので、より良い周知・広報等について御検討いただきたい。

（インフルエンザワクチン接種について）

松田会長：インフルエンザワクチンの接種状況について知りたい。

吉田課長：令和６年１１月末時点の接種率は３７％となっている。例年、４５％前後で推移しているが、今年度は若干低い状況である。

（産後ケア事業について）

松田会長：産後ケア事業の利用実績について知りたい。

南部課長：昨年度までは対象者の要件があったため、利用者が少なかったが、今年度は利用者が増加している。令和５年度は、ショートステイが５５５件、デイケアが３２０件で、計８７５件の利用実績がある。京都市の令和５年度の出生数が約７，７００人であるため、目安として約１割が利用している。

○ 議題・報告（２）令和６年度各区地域保健推進協議会（部会）の開催状況等について

⇒ 事務局（各所管課）から資料説明。

【質疑応答】

なし

○ その他 質疑応答等

（成人妊婦歯科健診について）

中村副会長：各保健福祉センターで実施しているものであるが、遠方であることを理由に受診を控えている市民もいることから、受診者数が増えづらい状況である。歯周病の予防が糖尿病等の重症化を予防できるということを踏まえて、より受診者が増えるよう各歯科医院での実施を検討していただきたい。

（京都府理容生活衛生同業組合の取組について）

西委員（理容）：当組合では、毎年９月に保健所の協力を得て、衛生消毒講習会を開催している。

また、昨年度から熱中症対策の取組みとして、「バーバーサロンクールシェア」を実施している。これは、高齢者の健康を守るために、お客様じゃなくても一時的にクーラーの効いた店内に避難してもらおう取組みである。

松田会長：理容・美容業は医療機関とは異なり、幅広い年代の元気な方と関わる業界であるため、元気な方への啓発等でも御協力いただきたい。

（定期的な歯科健診について）

夏目委員：成人後は歯が痛くなってから歯科医院を受診する方が多いと思うが、定期的な歯科健診の受診率向上のため、少しでも補助を検討していただきたい。

（災害時の非常電源について）

前田委員（下京）：下京区と南区においては、災害時の対応について検討しているが、災害が発生した際に保健事業を継続するための非常電源がない。

他の大きな行政区にある新しい施設は非常電源があると思うが、下京区と南区においては災害時の非常電源がないため、大きな災害が発生した場合には保健事業の継続が難しい。そういった状況を京都市においては、考慮していただきたい。

八代次長：災害時の電源確保については、保健所・区役所以外にも、例えば社会福祉施設や医療機関においても、電源が切断された際の対応は非常に重要な課題であると認識している。

能登半島の地震をはじめ、これまでの様々な災害地域での話を派遣された職員等、現地に行った方々からよくお聞きしているので、行政としても重要な課題と認識している。どのような形で電源等を確保するのかを、突き詰めて考えていきたい。

松田会長：京都市の防災計画の中でまだ具体的に決まっていない点多々あると思う。最近も宮崎県で地震が発生しており、京都市においても、いつ発生するかわからないことから、危機感を持って災害対策を考えている地区も多いと思う。私は山科区在住で、以前水害が起きた際には国道１号線と京阪電車とＪＲが全部止まったことがある。お正月等

に災害で止まると、行政・保健所等も含めて機能不全に陥ってしまうのではないかと懸念している。その場合における援助機能等を検討していただきたい。

(ごみ屋敷について)

小原委員(副)：民生委員の活動として、ごみ屋敷に対応しているが、衛生面が非常に気になっている。

保健所においても、衛生面でもう少し御協力いただきたいが、考えを知りたい。

八代次長：ごみ屋敷は高齢化に伴い、本人の意識に関わらず、そのような状態に置かれてる方がいる。本市ではごみ屋敷に関しての条例に基づき、保健福祉局や各区役所、環境政策局等で取組みを進めている。

ごみ屋敷が発生する背景には、精神的な課題を抱えている等、個別の事案毎に必要な支援が異なるため、様々な側面からの支援が重要であることから、支援を充実していきたいと考えている。

(带状疱疹ワクチンについて)

小原委員(副)：带状疱疹ワクチンは高額であるが、ワクチン接種について補助は考えているか。

吉田課長：带状疱疹ワクチンは、令和6年12月の国の審議会において、来年度からの定期接種化が決まっている。国で決まってる内容では、65歳が対象であり、また65歳以上の方の接種機会を確保するため、令和7年度から5年間は、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳を対象とする経過措置を実施する。本市の制度内容は、詳細が決まり次第、公表する。

(梅毒について)

松木委員(副)：梅毒の近況について知りたい。

上領課長：令和3年度から毎年過去最多を更新しており、令和5年度は110件、令和6年度は125件程度になると想定している。

20代の感染者が増えているため、今年度からSNS等を通じて啓発する取組を実施している。

松田会長：若年層への周知方法について、理容・美容等の業界の御協力を得る等の工夫を検討していただきたい。

#### 4 閉会挨拶

八代保健所次長